

建設業のための「DX推進セミナー」

2025年3月7日

有限会社ソフトブレスワン

越智 芳浩

Soft Bless One 会社概要

お客様の複雑な業務を ソフトウェアで支援します

お客様のお悩みをソフトウェアで解決したい。それが私たちの想いです。

会社案内

SoftBlessOne の 理念

「SoftBlessOne」には、ソフトウェアがもたらす恵み(業績、利益、労働環境、社会貢献など)を、お客様が望むものを、お客様本位の考え方にてご提案させて頂くことをモットーとし、お客様と末永くベストパートナーとしてあり続けたいという想いがあります。



事業内容

コンピュータを利用した業務改善の提案、業務分析、特注ソフトウェアの開発、メンテナンス、システムやコンピュータのトラブル解決、ネットワーク構築、コンサルティング業務を行っております。



業務分析

経営者の方や現場担当の方など幅広くヒアリングを行い、具体化できていない問題点を調査します。経営者の方が考えられている理想に近づけるためには、何をすべきか、何ができるかを分析します。



特注システム開発

お客様の業務に合わせたソフトウェア開発は当然な事と考え、弊社ではさらに踏み込み、お客様の宝である既存のデータ資産を有効に活用できるシステム開発を行います。



DXとは (DIGITAL TRANSFORMATION)



経済産業省

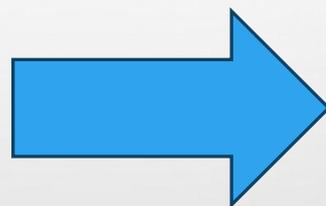
企業がビジネス環境の激しい変化に対応し、データとデジタル技術を活用して、顧客や社会のニーズを基に、製品やサービス、ビジネスモデルを変革するとともに、業務そのものや、組織、プロセス、企業文化・風土を変革し、**競争上の優位性を確立**すること。

デジタル化によってトランスフォーメーション(変革)させるのは、製品、サービス、ビジネスモデルという「企業の売り物」だけでなく、業務、組織、プロセス、企業文化・風土という「企業組織・企業活動」におよびます。そして、その目的は、競争上の優位性。つまり「**他の会社よりも儲かる仕組みをつくること**」なのです

一言も「ITシステムを導入する事」とは言っていません

DXを例えると……

100年前は 大八車



トラック



一度に多くの荷物を運べる

運送の時間短縮、働き方改革

競争の優位性

DXとはデジタルを活用して競争の優位性を高める



DXのまとめ

目的

競争上の優位性。つまり「**他の会社よりも儲かる仕組みをつくること**」

手段

製品やサービス、ビジネスモデルを変革

ビジネス、サービス向上、新しい取り組みなど「**対外的**」な改革

業務そのものや、組織、プロセス、企業文化・風土を変革

仕事のやり方、情報の共有、社員の積極性など「**対内的**」な改革

将来的なビジョンも踏まえ、**デジタルの力を使って会社の変革を行う**事になるため

担当者任せではできない。「**ITシステムを導入する**」事が**目的ではありません**

建設業における現状

1. 人手不足と高齢化

就業者数の減少 : 1997年と比べ2023年には約30%減少
高齢化の進行 : 高齢化が進行、2025年には40歳以上の割合が7割を超える

2. 資材高騰と倒産増加

資材価格の上昇 : 2021年後半から各種建設資材の価格が高騰
倒産件数の増加 : 2024年に過去10年で最多の1,890件を記録。3年連続で増加

3. 建設投資と修繕の増加

建設投資額の回復 : 2023年度 3.7%増 / 2024年度 2.7%増 73兆200億円
修繕工事の増加 : 2022年度 25.3兆円 施工高全体に占める割合は約30%
※今年になってからの状況について

4. 労働時間の規制

労働時間規制の強化 : 時間外労働の上限規制が適用
さらなる人手不足や工期の遅延が懸念

5. DXの遅れ

技術導入の遅延 : 他業界と比較してデジタル技術の導入が遅れている
生産性向上や人手不足解消のためにDXの推進が急務

DXの推進が急務って言われても！！

変革して競争の優位性(儲かる仕組み)を作れって何なの？

事業(業種)や企業規模で、正直、できることは限られている

スーパーゼネコン

ユンボを全自動で動かして土木作業、高所無人での作業、
工程管理、図面の電子化、品質管理…。様々な事が可能

専門工事を請け負う小規模の企業

製品や新しいサービスの提供と言われても……
元受さんの指示があった期日内で工事すればいいし……
サービス向上っていわれても、上からの指示予算内で
工事をして、落第点をとらなければいいので……

結論。中小企業のDXとは、結局は……

時間短縮、少ない人数で、誰でも簡単に、情報を有効活用、
空き(遊び)時間をなくす、新しい事を始める

建設業法による分類

① 土木工事関連(8業種)

- 1.土木工事業
- 2.建築工事業
- 3.大工工事業
- 4.左官工事業
- 5.とび・土工・コンクリート工事業
- 6.石工事業
- 7.屋根工事業
- 8.電気工事業

② 建築仕上げ工事関連(11業種)

- 9.管工事業
- 10.タイル・れんが・ブロック工事
- 11.鋼構造物工事業
- 12.鉄筋工事業
- 13.舗装工事業
- 14.しゅんせつ工事業
- 15.板金工事業
- 16.ガラス工事業
- 17.塗装工事業
- 18.防水工事業
- 19.内装仕上工事業

③ 設備・その他(10業種)

- 20.機械器具設置工事業
- 21.熱絶縁工事業
- 22.電気通信工事業
- 23.造園工事業
- 24.さく井工事業
- 25.建具工事業
- 26.水道施設工事業
- 27.消防施設工事業
- 28.清掃施設工事業
- 29.解体工事業

企業分類

ゼネコン(総合建設)
サブコン(専門工事)
ハウスメーカー(住宅建設)
工務店(建築業者)

今すぐにもできる簡単なDX

外部委託

専門家に任せる 例) 給与計算・社保手続

ドローン

高所作業や確認 例) 屋根の破損チェック

情報共有

属人化した情報を共有 例) 営業先・日報、工程進捗
実話) 営業部長に俗人化された情報

写真管理

スマホにて工事写真を送信 例) PCにLINEを導入

AI活用

案内文、問題解決、・・・など チャットGPT <https://chatgpt.com/>
実演) 工事案内、安全教育、トイレ掃除、若者の対応・・・

本格的にDXに取り掛かる

プロセスが必要

まずは、経営者が考えて実践していくことが必要

デジタル技術やツールを導入することが目的ではなく、データやデジタル技術を使って、新たな価値を創出する。(労働時間の短縮、作業負荷を下げる、情報を共有していつでも見れる・・・) 場合によっては、ビジネスモデルや企業文化等の変革に取り組むことも必要となってくる。

理念・意義

中期経営計画

解決方法の検討

結果どうなるか

失敗するパターン

(DXセミナーではありがち)

問題解決になっていない : DXやるぞ! AIを活用するぞ! **何かこんなITソフトがあるみたい!**

風土ができていない : 社長がまた言い出した! 忙しいからできない! 私は関係ない!

プロセスが必要と言われても・・・

なんか難しい事は置いておき、簡単に始める方法は無いの？

あります

キーワードがあります。業務の中で（社員さんからヒアリング）

ああ～めんどくさい

できればやりたくない

めっちゃ時間がかかる

EXCELで資料作成している



デジタルを使って解決する方法がないか検討する

事例① 問題定義

手間がかかっているのでDXできないか？

デジタルの力を使って業務を変えられないか？

グループB



明日の状況は？
何の作業者を依頼？

グループA



グループC



グループD



〇〇の片付に応援行って！
××から組立の応援行く！

各グループ（現場担当）に連絡をとり、
応援が必要な人数、可能(空き)人数を確認

机上でマッチング作業

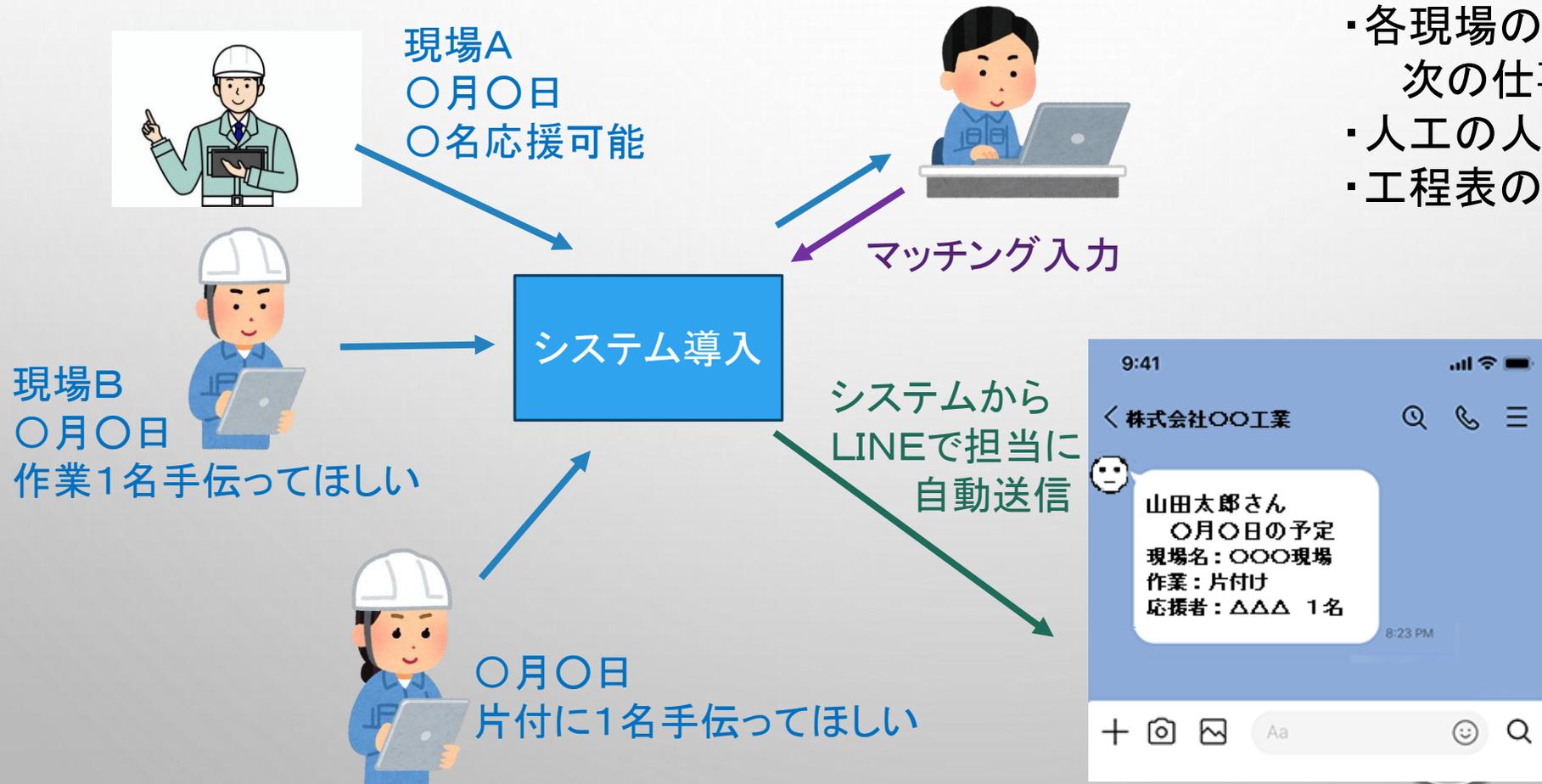
各グループ（現場担当）に連絡をとり、
応援元、応援先の情報を連絡

各現場毎の人数を手作業にて管理

事例① 解決策

業務の仕組みをシステム化

業務のやり方が変化・効率化→DX



副産物として

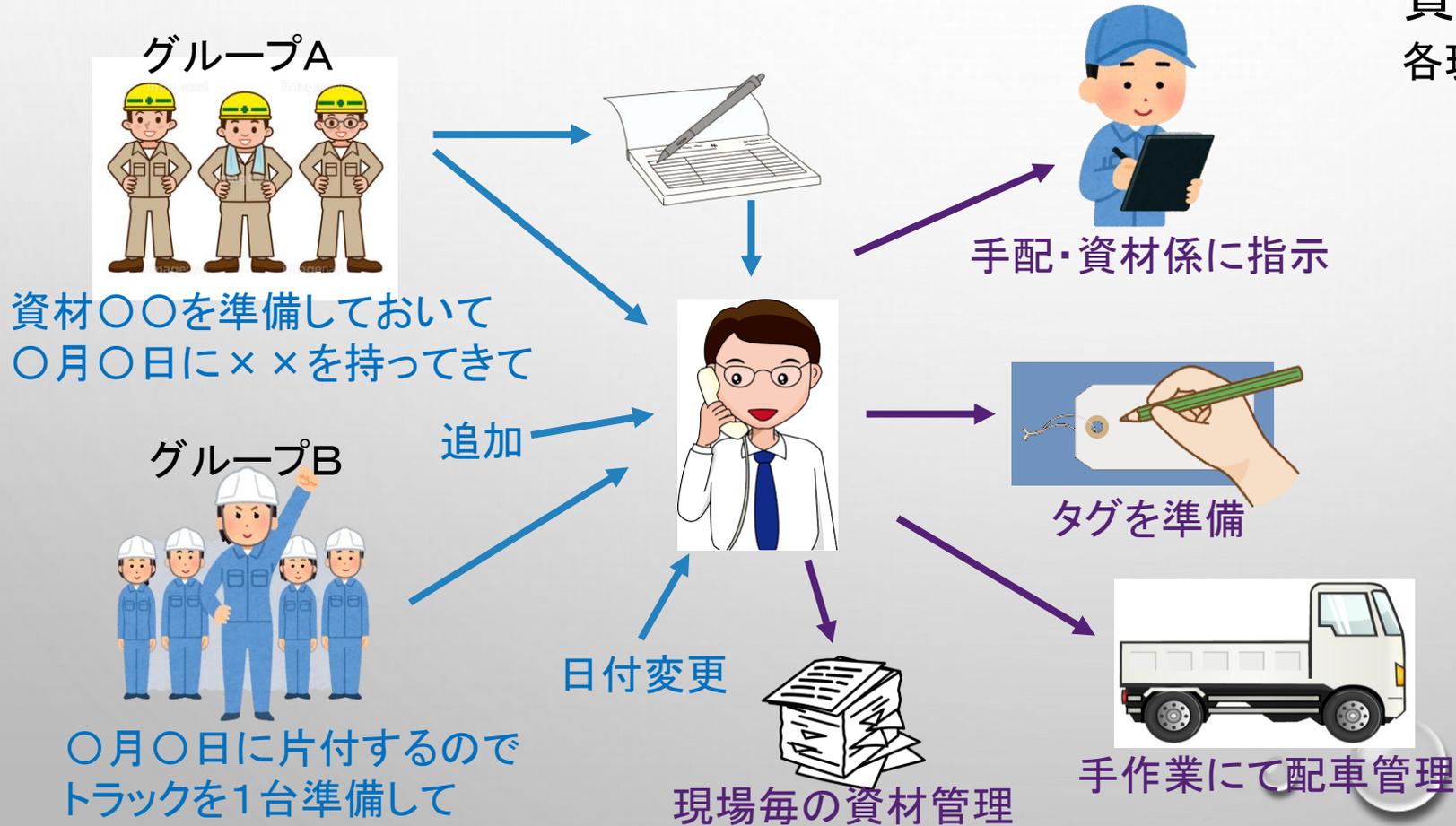
- ・全体のイベントカレンダー共有
- ・各現場の長期スケジュール
次の仕事を入れられるタイミング
- ・人工の人数集計
- ・工程表の自動生成

現場担当でも操作できるように、LINEを使用して業務連絡を配信
ガラゲーの場合にはメールにて送信(自動切換)

事例② 問題定義

手間がかかっているのではDXできないか？

デジタルの力を使って業務を変えられないか？



各グループ(現場担当)から
資材の手配、配車の手配がある
各現場毎に稼働しないトラックは準備しない



資材・配車管理者が手作業
にて管理、タグ準備



各担当へ指示
変更や追加なども対応



現場毎の実績を
手作業にて管理

事例② 解決策

業務の仕組みをシステム化

業務のやり方が変化・効率化・新しい取組み→DX



資材の手配



現場担当でもできる様に
LINE内にシステム構築



資材手配

システム導入



配送計画



副産物として

- ・複数の会社でトラックを共有して利用(予定)
- ・集計作業が自動化
- ・電話にて作業が中断されない

就労時間短縮、賃金の上昇の中、各社の資源を共有で有効活用する事も今後の問題解決の1つ

課題解決型のDXの進め方

まずは、経営者が考えて実践していくことが必要ですが
課題解決型のDXを進めることで、社員さんが成長していきます。

経営者が言わなくても、社員が「カイゼン」を提案してくる

ああ～めんどくさい

できればやりたくない

めっちゃ時間がかかる



デジタルを使って解決する方法が
ないか検討する

※内向けのカイゼンだけでなく、外向けの変革も必要です。
(社員からのカイゼンは、内向けだけになる傾向があります)

「カイゼン」 業務を見直して今よりも良くしていくための活動。
作業や業務の中にあるムダを排除し、より価値が高いものだけをおこなえるように、
作業や業務のやり方を変える活動。

ITツールを使ってDXを行う方法

デジタルを使って解決する方法がないか検討する

外部委託

業務そのものを外部委託する事も可能です。
例) 電話受付、給与計算・社保手続・・・

ITスキルのトレーニング

EXCELの使い方（簡単なマクロ等）を学習するだけでも効率がある事もあります

ITに精通した専門家

日常のちょっとした困りごとを解決できる
専門家が身近にいると非常に便利です

AIの活用

パッケージ（既製品）を使う

パッケージのほとんどが試用期間があります。
パッケージを導入して有効か、運用できるか、
実際に操作した後に判断する事をお勧めします。
複数のパッケージを比較する事も必要です。

既製品がない場合には、オーダーメイドを検討

費用対効果があるか検討する事が必要です。
非常に高価になるIT会社もありますので、
内容と金額の妥当性をご確認下さい。

社内開発

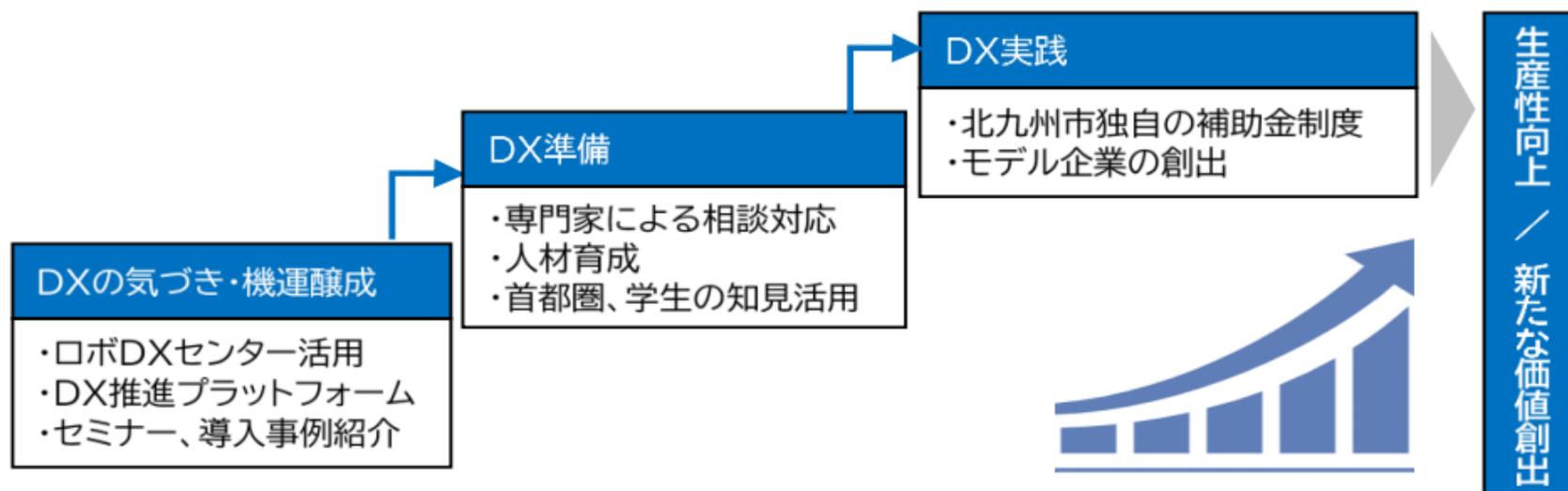
よくあるDXセミナーの場合、オーダーメイドはダメだ。
パッケージに業務を合わせるべきだ。と言われる事ありますが、
どちらともメリットとデメリットがあります。
御社にとって適切な手段を選択する必要があります。

北九州市のDXの取り組み

■北九州市のDX施策

DXの気づきから、専門家によるアドバイスや診断、人材育成、実践時の補助金制度など、切れ目のない伴走支援体制を構築することで、北九州市からDX実践企業を多く生み出し、市内企業の生産性向上および新たな価値創出を実現していきます。

なお、本取組は地域課題の解決や住民の暮らしの利便性と豊かさの向上、地域の産業振興につながる自治体のデジタル技術を活用した取組を表彰する「夏のDigi 田甲子園」において、内閣総理大臣賞・優勝を受賞するなど、評価を頂いているところです。今回受賞の(株)西原商事ホールディングスをはじめ、多くの市内企業が本施策を活用されています。



北九州市のDXの取り組み



DX Propulsion Platform in Kitakyushu

北九州市DX推進プラットフォーム

<https://ktq-dx-platform.my.site.com/>

・DXに対する、“知りたい”、“相談したい”、“人材育成がしたい”など、様々な「～したい」に対して、各種情報の閲覧ができます。

北九州市や北九州産業学術推進機構の情報のみだけでなく、国・県や他団体等の情報も掲載いたします。

・DXに関するお困りごとを、本プラットフォームに掲載することができます。

登録いただいたお困りごとに関して、解決が可能なサポート企業から連絡が来る場合があります。

・DXを進めていく中での効果検証として、自社の労働生産性※を随時登録することができます。

登録いただいた労働生産性は推移を確認できるほか、本プラットフォームの会員であり、かつ同業種である企業の中で、

自社の労働生産性は今何位なのかを確認することもできます。

DX関連補助金 一覧

<https://www.ksrp.or.jp/>

補助金の案内、DX推進補助金を活用したモデル企業の事例など

北九州市デジタル人材育成ホームページ

<https://www.dx-kitakyushu.jp/>



公益財団法人 北九州産業学術推進機構

中小企業支援センター

SME Support Center

専門家派遣など <https://www.ktc.ksrp.or.jp/>